



関川村

第64号

議会だより

平成18年8月1日
発行/関川村議会
発行/議長 近良平
責任者
編集/広報対策
特別委員会

〒959 3292 新潟県岩船郡関川村大字下関912番地

TEL(0254)64-1494(直通)
FAX(0254)64-3006



下関保育園



大島保育園



女川保育園

お星さまにおねがい...

たなばたさま

6月定例会報告

一般質問 5名登壇

荒川郷町村議会議員協議大会

村民の声

(議会だよりは村ホームページの議会事務局に掲載しています)

平成18年6月 定例会 自 6月14日 至 6月21日

一般会計補正予算

1億440万円追加

合計 43億7,940万円

平成十八年第四回関川村議会定例会が四月十四日から十一日まで八日間の会期で開かれました。村長の招集のあいさつに続き、五議員が一般質問に立ち、村長の考えをたどりました。

提案された議案は、報告三件、専決処分承認一件、補正予算五件、岩船広域事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更案件一件、関川村総合計画基本構想案件一件、条例の一部改正二件、訴訟の提起案件一件、諮問案件一件、請願一件、陳情四件、発議案五件で、訴訟の提起案件は否決された他、すべて可決、同意、採択されました。

一般会計補正予算

総務費

- ・作業棟 一棟（床面積三十三）

打上集落センター新築

二百八十万円

同センター下水道排水

接続

十五万円

中東集落センター駐車場

舗装

二十五万二千円

民生費

関川小規模通所作業所整備費補助

五十万円

・事業主体：関川小規模通所作業所さくら工房



さくら工房作業棟建設予定地

教育費

学校安全体制整備推進事業
三十五万四千円

農林水産費

新潟県農林水産業総合振興事業補助金
三百四十万九千円

・園芸生産拡大事業（施設園芸産地育成・リース事業）

・事業主体：JAにいがた岩船

・ユリ栽培用パイプハウス

整備五棟、暖房機二台
補助事業費 六百八十一万八千円

・補助率（県）五十％
間伐等森林整備促進対策事業補助金
千二十三万円

・事業主体：関川村森林組合

・事業概要：高能率林業機械導入事業（スイングヤーダ一台）

・事業費 千八百六十万円
・補助率（国）五十五％

（県）十％
蛇喰中東線（中東工区）
法面補修工事
九十五万円

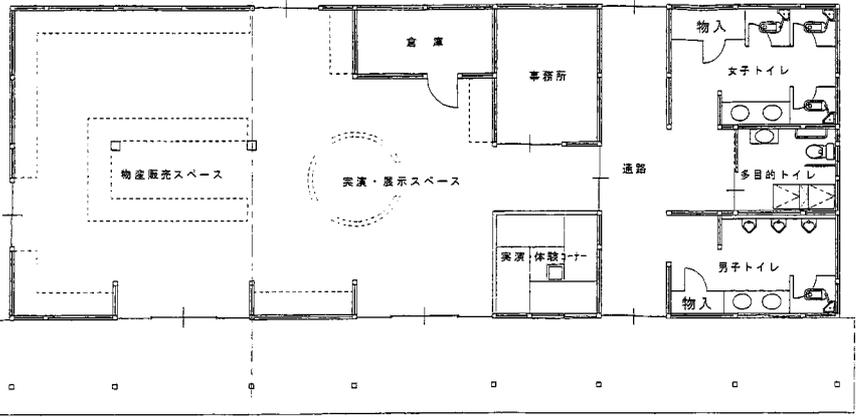
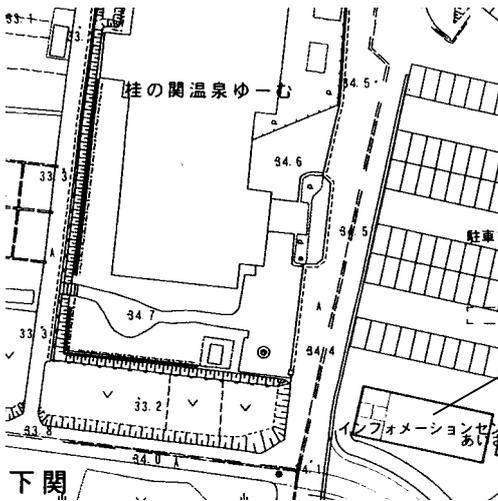
林道蛇喰中東線単舗装工事
百四十一万七千円

商工労働費

道の駅周辺整備事業
・測量調査委託料
四千五百万円

・地域文化交流会館・駐車場他整備費
八千二百三十七万九千円

道の駅周辺整備事業(案)



地域交流文化会館(案)

特別会計 補正予算

国民健康保険事業特別会計
百万円追加

国保連合会へ申請していた、生活習慣病予防・改善訪問事業が決定したため。
老人保健特別会計

三百六十九万一千円追加
過年度精算によるもの。

介護保険事業特別会計
七百二十六千円追加

職員一名増によるもの。
公共下水道事業特別会計

八百二十万円減額
職員一名減によるもの。

報告

財団法人関川村自然環境管理公社の経営状況報告について

平成十七年度会計監査結果

財産の管理及び会計処理はいずれも適正であり、計数等は正確であると認められました。

岩船地域土地開発公社の経営状況報告について
平成十七年度審査の総括

的意見

審査に付された決算は、諸帳簿、収支証拠書類、証書等と照合の結果、正確に符合し、事業の執行は適正なものと認められました。

平成十七年度関川村一般会計繰越明許費

農林水産業費

村有林保育委託事業
千四十九万四千円

教育費
土沢小学校 アスベスト対策事業

八百三十三万円
災害復旧費

林業施設災害復旧事業
七百二十五万円

公共土木施設災害復旧事業
二千九十九万九千円

専決処分

関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決処分
承認されました。

条例

関川村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例

請願・陳情

いずれも採択し、意見書を関係機関へ提出しました。
請願

三十人以下学級の実現、義務教育費国庫負担制度の堅持をはじめとする教育予算の充実を求める請願
陳情

関川村総合 計画基本構想

村の将来の姿として、「豊かで住みよい活気ある村」を目標とします。

訴訟の提起

平成十五年九月の小和田地内における土地取得に関し、喝取された被害金額の損害賠償請求をするこの議案は、四月二十七日の臨時会でも上程され、否決されてきました。

再度、六月定例会でも提案されましたが、起立採択の結果、否決されました。

人権擁護 委員の推薦

土沢 片野徹榮氏を推薦することに同意しました。



近 辰美議員 土地買い戻しに対する損害賠償請求は、先の臨時会で否決され、答えは出ているが、再度提案する理由は何か。

平田大六村長 村の姿勢として請求をやらなければならぬ、村の責務として遂行しなければならない。近議員 三年が経過し、事件が忘れ去られようとしている。訴訟を起こすのであれば、判決の下つた時点で、もっと早く出すべきでない

定例会初日の十四日、一般質問が行われ、近辰美、中倉虎治、渡辺健作、津野庄衛、渡辺秀雄の五議員が登壇。村道用地買い戻しに係る「損害賠償請求」の訴訟や「沼集落問題」、「高齢化社会の対応策」、「行政評価の実施」、「人口増加策」など、平田大六村長の所信をたじた。その質疑応答の要旨を紹介する。

土地買い戻し損害賠償

請求訴訟の真意問う

近 辰美議員

か。村長のやることは全て後手にまわり、対応が遅いのではないか。それとも警察など別の方面からの指示があったのか。

平田村長 後手ということ



渡辺健作議員 関川村の高齢化率は、一九五五年から五十年間で、5・2%から32・4%と上昇している。その中で一人暮らし世帯は9%となっている。今後、高齢者福祉施設を建設する予定は。施設に入所待ち

は現在何人いるか。高齢化で今後の具体策は。平田大六村長 村としての

の予定はない。民間からの参入の期待で、小規模多機能型居宅介護の計画がある。利用者の希望に応じて、通いを中心とした訪問と泊まりを組み合わせたサービス

高齢化が進む関川村

今後の具体策は

渡辺健作議員

の提供である。在宅生活を続けていくための必要な介護サービスである。待機は現在村民で八十三人。このうち緊急性の高い人は二十人くらい見込んでいます。

村の健康づくり計画に基づく地域活動の推進、老人クラブの団体や公民館など連携し、生涯現役で過ごせるような環境づくり、地域の連携などを考えている。

渡辺議員 過疎地域自立促進計画の後期計画で、全村五十四集落のうち、一集落の世帯数が四十九世帯以下は四十五集落あり、なおか

はない。この件の発生後の経過については、たびたび皆さまにここで話しをしていく。事件判決後、依頼した弁護士が裁判所に裁判資料の提供を申請し、訴訟の準備をお願いして、ようやくまとまったので、四月の臨時会に提案した。ご理解

をいただきたい。近議員 村にとって費用もかかるし、イメージダウンで得るものはない。過去のことにいつまでも関わっていないで、村民福祉の増進に向けて進んだらどうか。

平田村長 村の責務を履行しているものであり、これを進捗状況は。平田村長 考え方として、一つは人口の流出によって、集落の機能が困難な集落の再編を住民の意向や意思を尊重しながら検討していく。もう一つは、自然や伝統文化など地域の特性を生かして都市との交流を積極的に



つー集落の世帯数十二軒以下が十一集落ある。対策として集落の整備とあるが、

中倉虎治議員 訴訟中の沼集落の「村八分」事件では、村長が中に入って解決しなかつたために、大騒動になった。村長から沼区長あてに勧告が出されているが、原告側にも出したのか。

沼集落の訴訟問題

村長の指導力で解決を

中倉虎治議員

平田大六村長 村として集落は一つであるという考え方で、沼集落の代表は区長一人であり、区長設置条例に基づいて、早い正常化を願ひ、勧告した。

中倉議員 村長のやってい

る行為は、平等でないから質問している。最初から誠意を持ってやれば、もめ事にならない。人に指図されてやったのか。集落で決めた人足や集落費を納めない人を集落民といえるか。

平成18年第4回定例会 一般質問

もらいたい。

平田村長 村長として平等に対処している。

中倉議員 沼区長は、勧告を受け入れたら「集落はどうなるか」と村長に聞いたところ「知らない」と答えただけ、区長は辞表を提出したが、



(前ページから続く)

平田村長 指図は受けていないし、人足、集落費の負担は集落の決まりであって、村長の関与する部分ではない。あくまでもその集落の合意によって集落民は形成されていると考えている。中倉議員 あの「イワナ捕り大会」は集落の合意でやっている。それを片一方の集落民にだけ勧告を出すというのは筋が違っているのではないかと。集落費も出さない、人足にも出ない今の現状でよいのか。平等になるように村長の指導力を発揮して

津野庄衛議員 能率的、効果的な村政運営のため、「むらづくり基本条例」による「行政評価」を行い、「財政状況」と合わせ村民に公表し、能率と有効性を論ずる必要があると思うが。平田大六村長 条例に基づく「行政評価」は、基本的には進めなければならぬと考えている。住民の目線で行われる評価でなければならぬと考えており、実施に向けて、取り組みに努力したい。

中の裁判の結果の質問ということだと思ひ申し上げた。中倉議員 公判で総務課長が原告側の証人で、事実無根の証言し、被告らは不利になったというが。平田村長 課長も村長と同じ立場の考えで対処しており、事実に基づいた証言だと信じている。

行政評価の実施と

小中学校の耐震診断は

津野庄衛議員

全を得るため、小中学校の校舎の耐震診断が求められている。文部科学省の調査では、耐震診断実施率0%の市町村が公表され、本村

もこの中に入っている。学校統合、財政的な問題もあるが、今後の予定を伺いたい。

平田村長 今後の予定として、合致することになる。



渡辺秀雄議員 自立を目指して取り組んでいる村が、このままでは衰退してしまう。活性化を図るためには、

中倉議員 次に村税について、納税したにもかかわらず督促状が来て、結果的に二重に納税した村民がいたと聞いているが。平田村長 督促状を発送したのは事実であり、お詫びする。今後このようなことのないよう業務を監督・指導していきたい。

で、関川中学校は教室など本年診断し、できれば来年度に補強しながら、大規模な改修工事を実施したい。小学校については、平成二十一年度までに五つの学校を統合し、新校舎を作る予定で、新校舎は耐震基準をクリアできると考えている。野沢専治教育長 村内の小中学校六校の棟数は十七棟あるが、五十六年の耐震基準に該当するものは四棟ある。安角小学校の教室棟と体育館、川北小学校の特別教室、関川中学校の特別教室棟である。そのほかの十三棟は基準に合っていない。今後、平成二十二年度に予定している新しい統合校舎の建設で百パーセント基準に合致することになる。

人口の増加策と

子どもの安全対策を伺う

渡辺秀雄議員

人口増加が課題である。実現させる対策として、団塊の世代にターゲットを絞る村に呼び込むのはどうか。

平田大六村長 人口減少に歯止めをかけるのは大きな課題である。いろいろな施策を講じているが決め手が

ない。現在取り組んでいるのは、定住の促進対策、働く場の確保、国の交流居住推進モデル事業で、この中には団塊の世代の対処も含まれている。いろいろな施策を組み合わせて努力していかねばならない。津野庄衛議員 最近、特に地方で小学生の登下校時に凶悪犯罪が多発しているが、子どもの安全を守るための取り組みを伺いたい。平田村長 学校では、校舎の出入りのチェック、登下校時の職員による見回り、通学路の安全点検、不審者情報の交換、防犯教室の開設など。「こども一〇番の家」を地域九十箇所にお願ひし、五十九の企業に「こども一〇番車」のステッカーをつけてもらっている。地域のボランティア活動では、霧出地区で地域ぐるみの安全対策に取り組んでいる。今年度、県の委託を受けて、関川村、荒川町、神林村の三町村で学校安全体制整備推進事業を行い、スクールガードリーダーを配置するなどして取り組んでいる。

荒川郷町村議会議員協議大会 荒川町



関川村、荒川町、神林村、3町村議会議員で構成する議員協議大会が、荒川町を会場に6月9日、地元選出の国会議員、県会議員、国・県の出先関係者、関係の町村長を来賓に招き盛大に開催されました。

この大会は、荒川郷の懸案事項の早期実現と整備促進、地域住民の福祉向上に大きな役割を果たしてきた伝統ある大会です。今大会で、各町村議会から提出された議件は、全て採択しました。

前年度要望に 対する関係機 関の処理状況 の回答

を行い、供用開始しました。
平成十八年度は、旧橋撤去
及び旧道路敷の処理を行い、
事業完了の予定です。

黒俣越後下関停車場線

安角地内は、平成十七年
度で残りの道路工事を行い、
事業は完了しました。

三、荒川頭首工の岩鼻用水
路取水口改修の早期実現に
ついて
今後、関係機関、関係者
の意見の調整が整う中で、
取水口改修の申請があれば、
その時点で検討を進めてい
きます。

四、治水・砂防ダムの整備
促進・荒川本川の局所洗掘
対策・低水護岸・高水敷の
環境整備の促進について
荒川流域砂防事業の早期
完成について

「女川第四号砂防えん堤」
について
女川砂防第四号砂防えん
堤については、平成四年度
より着手し、平成十七年度
には約千の工食用道路が

完成しました。
平成十八年三月には、国
債工事（三力年）を契約し、
平成十八年度より砂防えん
堤本体工に着手いたします。

「田麦沢砂防えん堤」に
ついて
平成十七年度には約二
百の工食用道路の施工及
び砂防えん堤本体工に着手
しました。
平成十八年度は、砂防え
ん堤本体工の施工を継続し
たします。

「大沢砂防えん堤」につ
いて
平成十七年度に新規着手
し、砂防えん堤の詳細設計
を実施し、地元及び関係機
関との調整を行いました。
平成十八年度は、工食用
道路を施工し、砂防えん堤
本体工に着手いたします。

横川ダムの早期完成につ
いて
平成十九年度完成を目指
し、ダム本体をはじめとし
て、管理所並びに周辺整備
等の工事の進捗を図ります。
平成十八年七月を目的に

一、国道二九〇号線の改良
整備の早期完成について
国道改築事業（桂、小長
谷ハイパス工区）
平成十七年度は、暫定舗
装済みで供用していた区間
の舗装工事と歩道工事を行
いました。
平成十八年度は、ハイパ
ス計画区間内の地質調査を
行う予定です。

二、県道大栗田越後下関停
車場線及び、県道黒俣越後
下関停車場線の整備促進に
ついて
大栗田越後下関停車場線
平成十七年度は、舗装工
事、荒瀬橋床板、橋面工事



県営農地環境整備事業（玉郷立地区）

ダム本体コンクリート打設を完了させる予定です。
放流設備工事では、平成十八年度に現地据付を完成させる予定です。
付替道路工事については、計画八路線のうち、五路線については供用又は概成しており、残り三路線の早期供用に向けて工事を進めます。

荒川本川の水衝部対策の

促進

平成十七年度は、雲母地区において、水制工二基を施工し、当地区の水衝部対策を概成させました。今後とも、河川の深掘れ等を注意深く監視し、所要の対策を実施することとします。

荒川左岸下流桜づつみモデル事業の早期完成（荒川町地内）
平成十四年度補正予算か

ら工事着手し、平成十七年五月には、「特色ある桜づつみ記念植樹会」主催による「荒川桜づつみ記念植樹会」が開催されました。
平成十八年には、造成工事（盛土）が完成する予定です。

五、県営農地環境整備事業（玉郷立地区）の新規採択について

- 「玉郷立地区」（A・一四・九ha）には、平成十八年度から県単調査計画に着手する予定となっており、平成二十年年度の新規採択を目指します。
- ・平成十八、十九年度調査計画予定
- ・平成二十年年度新規採択予定

六、県営ため池等整備事業（用排水施設整備）の早期完成について

「下関地区」については、平成十四年度に新規地区として採択になり今年度五年目です。

平成十八年度に一期地区を完了し、平成十九年度から二期地区に着工する予定

です。

平成十六年度まで
用水路工
L〃八九三・八

平成十七年度
用水路工
L〃八九・六

（平成十七年度までの進捗率四九%…下関地区全体）

平成十八年度
用水路工 L〃二八五

表彰

荒川郷町村議会議員協議大会において、左記の方々が表彰されました。おめでとございました。

特別功労者

中倉 虎治 議員

永年勤続者

十二年 大沼 文夫 副議長

十六年

近 良平 議長



県営ため池等整備事業（下関地区）

村民の声

「生き生きとした 集落を目指して」

高橋かず子さん

(大石)



本年四月「新潟日報」の紙面に関川村が大きくとり上げられたことは、まだ記憶に新しいことと思います。「のしかかる少子高齢化」という見出しには本当にどきつとさせられました。内容も記者の方が村内を取材しての直接のルポでしたので深く考えさせられたものでした。

さて私の住む大石集落も例にもれず少子高齢化は村の現状をしごく勢いで進んでいます。

村でも今年度より「地域包括支援センター」等を設置したり、いろいろな福祉についての計画を策定して頑張っているようですが、そんな中で今私たちに出来ることは、どんなことなのでしょう。

村も合併せず自立の道を模索しているなか、村民一人一人が自分で出来ることを見つけ行動しようとする気持ちが一番大事なような気がします。

お隣りさんやお向かいさんはそれぞれ今日も元気なんだらうか。小さい集落だ

からこそ出来る「声かけ」や「見守り」があるのではないか、そんな気がするのです。

幸いにも私たちの大石集落はどこにも負けない人情味あふれる集落だと自負しております。もちろんプライバシーを守ることは最低限のルールだとは思いますが・・・。

今もやってあげられる立場でもいつかはお世話になる身になるかもしれません。お互い様という気持ち、ちょっととした心遣いでなんとなく安心出来る、住んで良かった、ここで生まれて良かったと感じられる集落であってほしいと思つのです。

高齢者の方だけでなくこれからの時代を担う子供達にもしっかりと目を向けて、それぞれ集落に住んでいる人全員が生き生きと目を輝かせて住めるような集落であってほしいと思つのです。そういう集落が一つでも二つでも増えてゆけば村全体も「キラリ」と光ってくるのではないのでしょうか。

第27回 町村議会

広報研修会

六月二十八日新潟県自治会館において、県町村議会協議会主催の広報研修会が開催されました。当議会からも広報対策特別委員五名が参加しました。

講師は全国町村議会議長会広報コンクール選考委員も務められています、城市創先生でした。

研修内容は、親しまれる紙面のつくり方ということ



で、議会だより編集のポイントなどを学んできました。今後の編集に生かしていきたいと思えます。

編集後記

関川村総合計画（基本構想）が全会一致で可決されました。「豊かで住みよい活気ある村」を目標にした具体的な計画が網羅されています。計画は実施してこそ意義があります。スピーディな対応を切望します。

平成十八年度荒川郷町村議会議員協議大会が、荒川町公民館で開催されました。三町村より十八の議件が提案され、承認されました。

内容は河川・道路・営農などです。実現にむけ各機関に働きかけます。

七月五日より鮎釣りが解禁になりました。村外からも大勢の釣り人が訪れて、少しでも村の活性化につながるためにも、豊漁のシーズンでありますように。

渡辺(健)

